

分科会②「地域災害支援」 1日目 分散会 1

司会：倉野 直紀

委員：小椋 英子・山下 孝子

・・・・・・・・・・・・・・・・



司会：始めたいと思います。始める前に確認したいと思います。今日の会議はとても大切なものになるので、報告書を作成する予定です。意見は記録に残し、報告書に掲載いたします。ご了承ください。

分科会の進め方です。地域支援の分科会は2つに分けましたが、討議の内容は一緒にしたいと思っています。討議の柱は2つあります。1つはアの「日常的な防災体制～災害が起きる前の備え」、2つ目はイの「災害が起きた時の対処の体制」です。今日は、アの日常的な防災の取り組みを討議します。イは明日会場を変えて行います。明日は分散会でなく分科会でひとつになって討議します。

聴覚障害者関係団体・者との連携や、手話通訳者の派遣体制、情報発信体制等があります。まずは簡単な所から、皆さんの意見をお聞きしたいと思います。田中先生の講演がありました。地域の防災訓練に参加している方も多くいると思います。地域の人と人との関わりを持っているかどうか、その辺りから話し合いたいと思います

まずは確認です。自分の県又は住んでいる市で、ろう協と防災組織の連携を持って防災訓練をやっている地域の方は挙手して下さい。(7人挙手) 後で簡単に報告していただきたいと思います。

2つ目、各都道府県で、東日本大震災の救援地域本部から聴覚障害者災害救援地域本部に名前が変わりました。心配していることがあります。名前を変えたことで、支援は終わったと思われるのではないかということです。自分の地域の防災体制に取り組むのはとてもよいことです。ただ名前を変えただけで終わってしまうのではないかと心配です。以前から防災の委員会や県独自の防災の取り組みをやっていたという方は挙手して下さい。これも7人ですね。

<板書> 関係団体・地域との繋がり・情報伝達体制・活動拠点・災害発生時の準備

防災体制を考える時に、必要になるのがこの5つです。これまで自分の県で防災体制の委員会等取り組んできた所から、この5つの項目をポイントとして報告していただきたいと思います。

「関係団体」というのは県のろうあ協会が持っている防災体制、例えば全国手話通訳問題研究会(以下、全通研)・県手話サークル連絡会(以下、県サ連)・その他、難聴団体、要約筆記等の関係団体についてです。「地域との繋がり」は、県と一緒に防災訓練をやっているかなど、地域との繋がりを持っているかです。「情報伝達体制」は、災害が起きた時に会員や関係者に情報を発信する体制があるかないか。行政が防災メールをやっている、ろうあ協会独自に何かシステムを持っているかなどお聞きしたいと思います。「活動拠点」は、聴覚障害者情報提供施設(以下、情報提供施設)なのか、ろうあ協会の事務所なのかその辺りもお聞きしたいと思います。「災害発生時の準備」は、災害が発生した時にまずなくてははいけないのは安否確認、救援物資の配布です。しかし、災害が発生すると停電します。